

明日を担う

Vol.24

当院の“明日を担う”スタッフに、
work、life、そしてvisionを語ってもらいましょう。

外科

ふくい さえこ
福井 彩恵子

profile

出身地:長崎県

好きな季節:秋



Q：医師を目指したきっかけは何ですか？

A：患者さんが笑顔で退院していく風景を目にしたことがきっかけだと思います。誰かの役に立てるようになりたいと考え始めたとき、医療に携わる職業が自然にイメージされていました。

Q：専門を“外科”に決めた理由は何ですか？

A：単純に手術に魅力を感じたからです。治療をする人になりたい、自分の手で人を助ける術を身に付けたい、とは漠然と考えていました。学生実習でいろいろな診療科を経験する中で、手術室にいる時間に最も充実感を覚えました。腹部手術は奥深く、生身の腹と向き合う緊張感は独特です。熟練した手技や連携のリズム感到に憧れ、外科ローテーション中に深夜まで張り付きで居残ったあと、もしや手術が好きなのかもしれない……と、帰路に着いたことを覚えています。進路を決める上で、外科に面白さを感じたのは想定外だったので、研修医期間中もしばらく誰にも言えませんでした。ただ頭は逡巡していましたが心は決まっていたので、いざ腹を括り、外科の道へ入りました。

Q：日々の業務内容を教えてください。

A：外科医は日々消化器外科手術を中心に動いています。当科の中には、上部消化管、下部消化管、肝臓、胆道・膵臓のエキスパートチームがあり、それぞれのグループで良性疾患や悪性疾患の外科治療を行っています。多くは、あらかじめ日程を組み手術に臨んでいただく「予定手術」です。手術が効果的な選択肢なのか、患者さんのコンディションは手術に耐えうるのかを判断し、治療のご希望を事前にご相談します。一方で急性疾患に対しては、即時に手術に向かう「緊急手術」が

必要なこともあります。手術後は、元気な退院を目指し、多職種で連携しながら入院生活をサポートさせていただいています。

Q：仕事で大切にされていることは何ですか？

A：目的を明確にし、そのために次に正しいことをやり続けること。常により良くなりたいと目指すことがシンプルに原動力となっています。

Q：現在の働き方はいかがですか？

A：職場環境としては非常に恵まれていると感じています。当院は各診療科や部門の専門性が非常に高く、かつ相談しやすい土壌があります。手術や診療を行う上での協力体制は本当にありがたいです。外科医の働き方という視点では、私個人に限らず、議論が尽きないテーマです。職人業なので、技術向上と後進育成のためにかけざるを得ない労力が現状としてあります。また一人では成立しないチーム業なので、人手が必要です。今後仲間が増えることで職務時間に関して分散が図れると良いなと思います。仕事を支えてくれる家族には感謝しかありません。

Q：オフの時間の過ごし方は？

A：特別なことはありません。できるだけリラックスして英気を養うようにしています。

Q：今後の目標を教えてください。

A：外科医としてはマイルストーンとなる認定資格がいくつかありますので、一つ一つクリアしていくことが目標です。身体を預けてくださる患者さんのため、スペシャリティを高め日々心身を鍛え整えていきたいと思っています。